令和６年７月２６日
第３回ＪＲ川越線利便性向上推進協議会
川越市資料

ＪＲ川越線南古谷駅北口開設及び駅周辺まちづくりについて

令和６年７月２６日

川　越　市

川越市マスコットキャラクター
ときも

目　次

1　南古谷地区の紹介

2　経　緯

3　南北駅前広場及び南北連絡自由通路整備計画

4　南北連絡自由通路イメージパース

5　南古谷伊佐沼線整備

6　南古谷駅周辺土地利用の概況

7　土地利用の方向性

1　南古谷地区の紹介

位置図

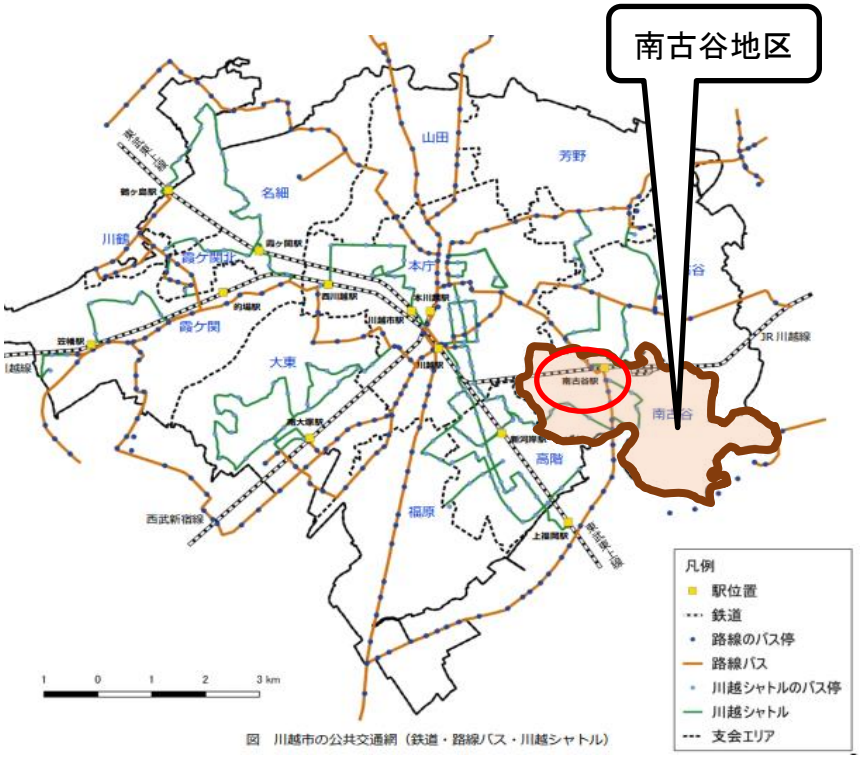


図　川越市の公共交通網（鉄道・路線バス・川越シャトル）

２　経　緯

【現状】
・南古谷駅は改札口が南口のみであり、北側からの駅利用者は、鉄道を迂回横断すしなければならない。
・南口は小規模な駅前広場であるため、バス・自動車・自転車及び歩行者などが錯綜している。

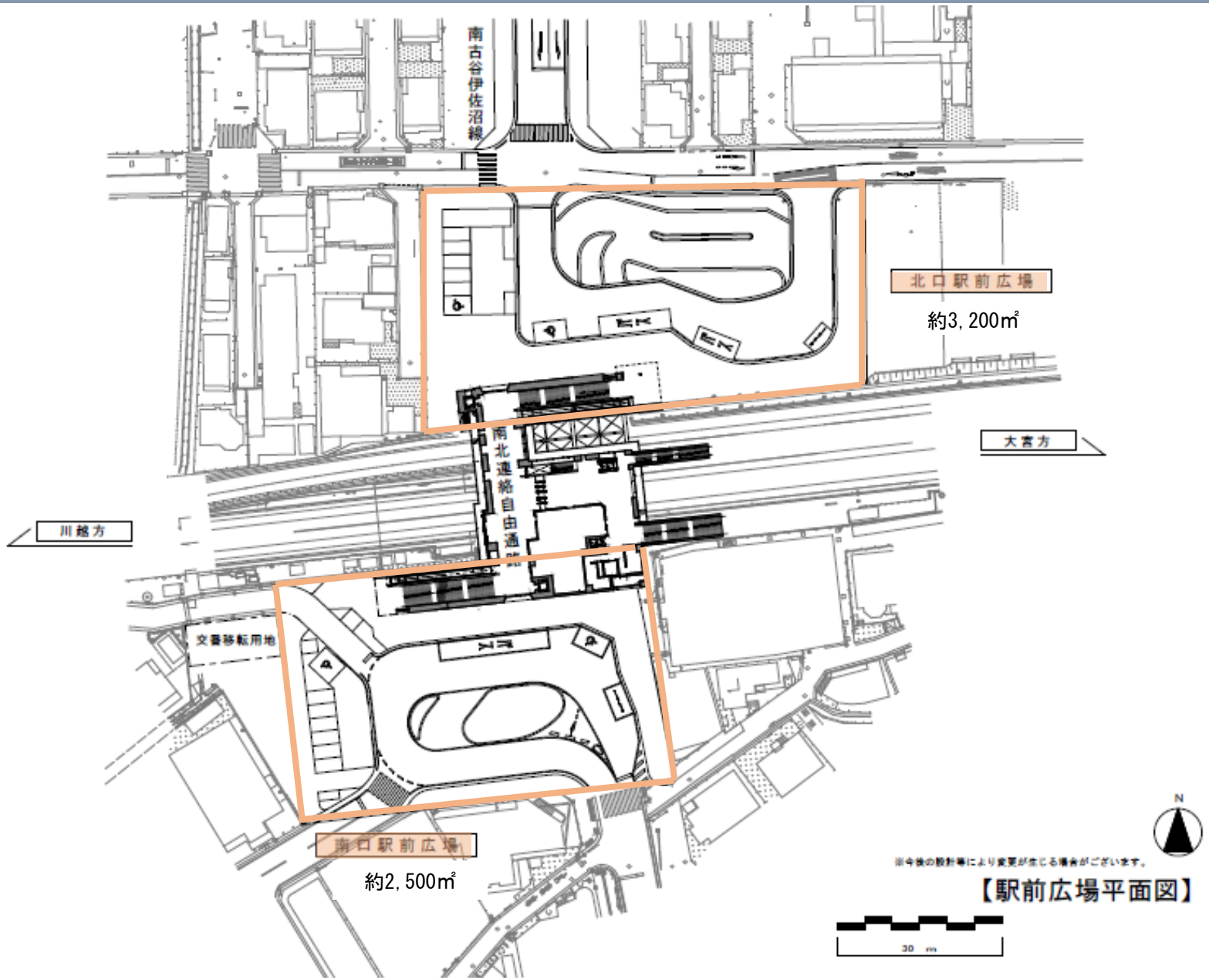
【今後の取組】
・都市計画道路や駅前広場などの都市基盤整備による交通結節点機能の強化
・南北連絡自由通路を整備して分断された市街地の一体化
・都市機能の強化充実を進め、地域の活性化及び賑わいの創出

現在の南古谷駅駅前広場

自動車、バスが錯綜

駅改札口利用者

３　南北駅前広場及び南北連絡自由通路整備計画図

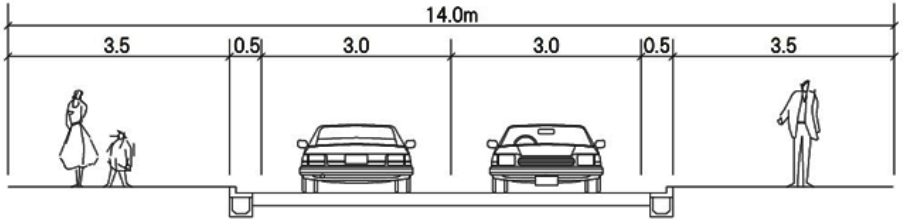


4　南北連絡自由通路イメージパース

5　南古谷伊佐沼線整備

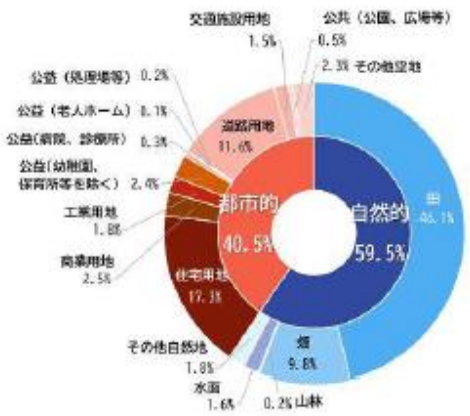
幅員イメージ

◆標準断面図（２車線・幅員１４．０ｍ）

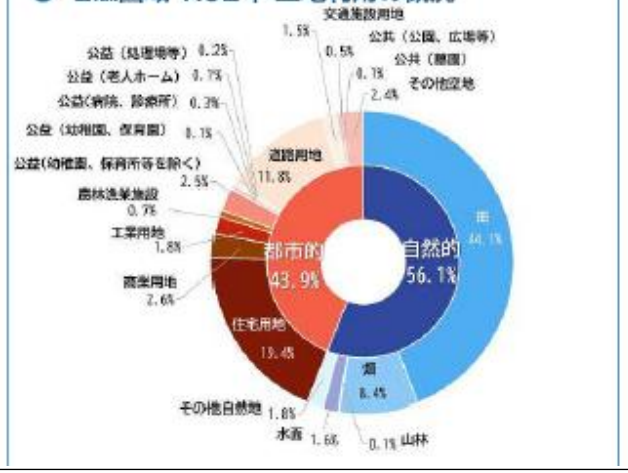


6　土地利用の概況

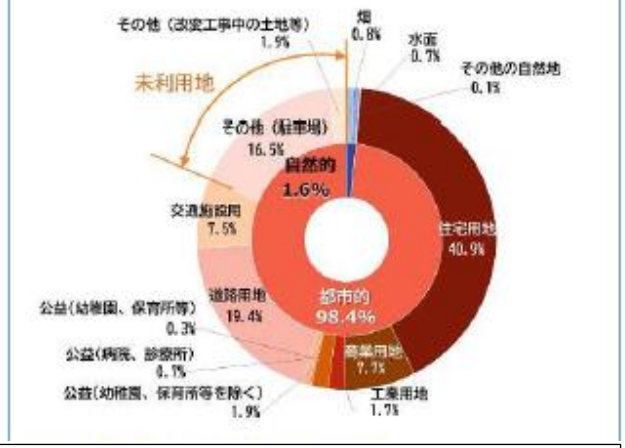
● 2km圏域:H22年 土地利用の概況



● 2km圏域:R02年 土地利用の概況



● 0.2km圏域:R02年 土地利用の概況



●2km圏域

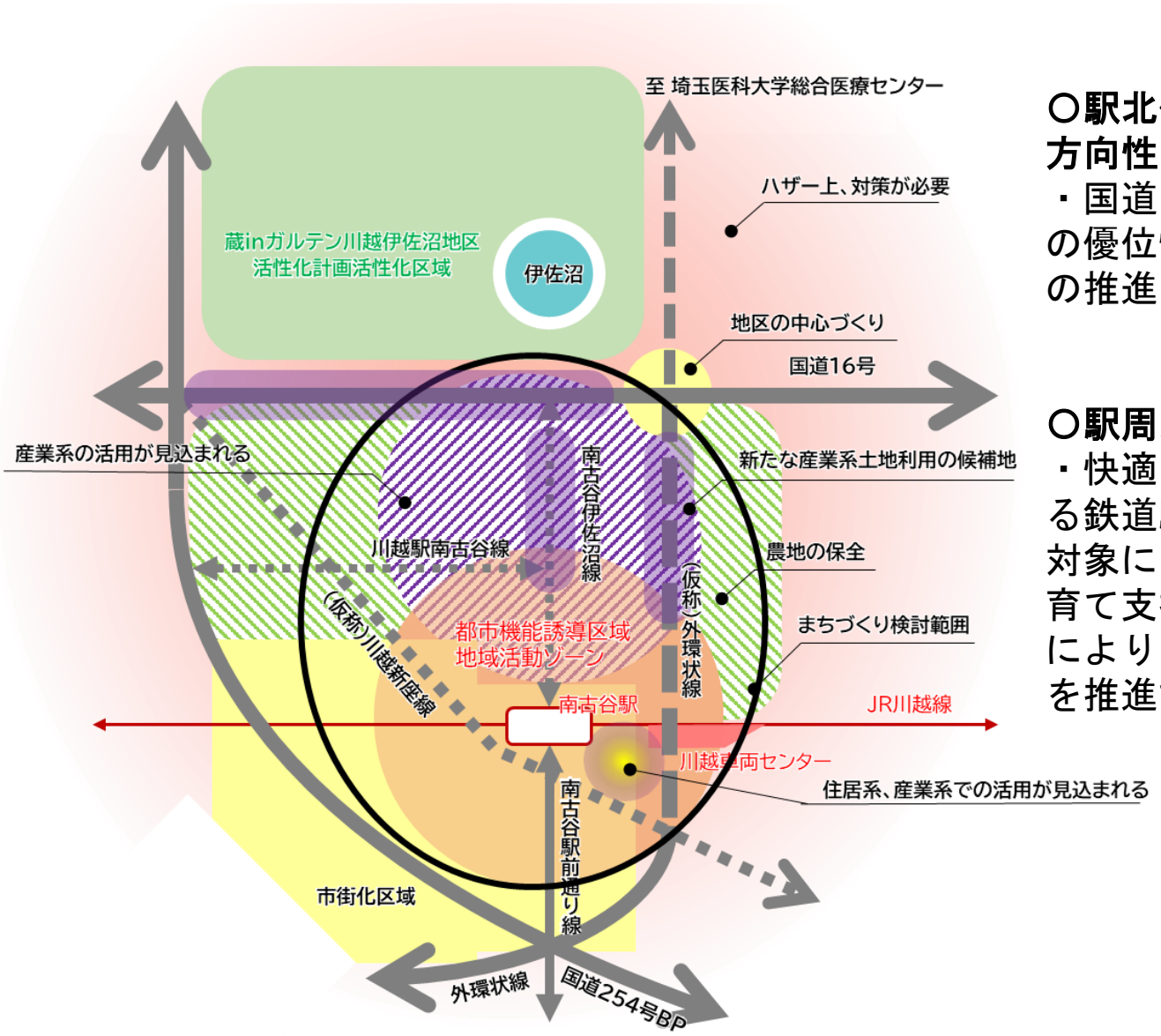
○平成22年度調査と令和2年度調査を比較すると、<u>自然的土地利用が59.5%から56.1%へ3.4ポイント減少している</u>。特に田、畑が大きく面積を減らしている。

○<u>都市的土地利用は、40.5%から43.9%へ3.4ポイント増加している</u>。特に住宅用地が大きく面積を増やしている。また、幼稚園・保育所と老人ホームといった<u>公益施設用地面積の増加率が高い</u>。

●0.2km圏域

○自然的土地利用は1.6%程度である。また、都市的土地利用として、住宅用地40.9%を占める一方で、その他（駐車場）、その他（改変工事中の土地等）を合わせて、　<u>18.4%が低未利用地となっている</u>。

7　土地利用の方向性



○駅北側新市街地での土地利用の方向性

・国道16号に近接した道路交通環境の優位性を踏まえた産業系土地利用の推進と農地保全を図る。

○駅周辺での土地利用の方向性

・快適な都市活動のフィールドとなる鉄道駅を中心とした800mの範囲を対象に、大型商業施設を核とした子育て支援等の都市機能の維持、集積により、まちの活力及び魅力の向上を推進する。